

皆様おはようございます。1月にしては暖かい日々が続き、このまま寒くならないで、2月を、3月を、春を迎えて頂きたいと願います。

師走の12月はあっという間に過ぎ、先日年が明けたかのように思われましたが、もう1月も真ん中までやってまいりました。

コロナウィルスによる感染症がいよいよ広範囲に、身近なところに及んでいることを思います。どうぞ皆様ご自愛ください。疲れをためずに、体の抵抗力が良く働く環境を整えて頂きたく願います。

また私たちはヨハネの黙示録に戻ってまいりました。黙示録も今回を含めてあと7章を残すのみとなりました。

巻物の封印が解かれまして、七つのラッパの音と共に大きな災いが地に起こりました。それから竜や獣や偶像が出てきました。そして七つの災害を携えている七人の御使が、汚れない、光り輝く亜麻布を身にまとい、金の帯を胸にしめて、出てきて、そして、四つの生き物の一つが、世々限りなく生きておられる神の激しい怒りの満ちた七つの金の鉢を、七人の御使に渡したというのが、前章の最後の個所にありました。いよいよ最後の七つの裁きの御業が始まります。

1 それから、大きな声が聖所から出て、七人の御使にむかい、「さあ行って、神の激しい怒りの七つの鉢を、地に傾けよ」と言うのを聞いた。

神様の激しい怒りの七つの鉢が、地に、海に、川と水の源に、太陽に、獣の座に、大ユウフラテ川に、そして空中に傾けられ、投じられました。そしてこの災いは、獣の刻印を持つ人々と、その像を拝む人々をはじめ、世界全体と、悪魔とその勢力とに及びます。

2 そして、第一の者が出て行って、その鉢を地に傾けた。すると、獣の刻印を持つ人々と、その像を拝む人々とのからだに、ひどい悪性のでき物ができた。

13章にありましたように、おどろおどろしい、怪しき権力と勢いがあり、その支配力の中、獣の刻印がなければ売り買いも出来ないくらいに聖徒たちが包囲網に閉じ込められ、迫害され、殺されていた、追い詰められていたあの状況を思い起します。しかし今度はその立場が逆転します。

13:11 わたしはまた、ほかの獣が地から上って来るのを見た。それには小羊のような角が二つあって、龍のように物を言った。

13:12 そして、先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた。また、地と地に住む人々

に、致命的な傷がいやされた先の獣を拝ませた。

13:13 また、大いなるしるしを行つて、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。

13:14 さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。

13:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。

13:16 また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隸にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、

13:17 この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。

3 第二の者が、その鉢を海に傾けた。すると、海は死人の血のようになって、その中の生き物がみな死んでしまった。

4 第三の者がその鉢を川と水の源とに傾けた。すると、みな血になった。

第一の御使いが鉢を傾け、第二が傾け、第三が傾け・・・、どんどんと淡々と事が進んでいきます。

地に悪性の腫物の病、海に血、生き物がみな死に(今回はラッパの時のように三分の一ではなくみな死にとあります)、川と水の源も血になります。

水を司る御使いは、先に風をせき止め世界を守る御使いや、火を司る御使いと共に、神様のお働きのため、仕え働き、この世界の守りのため、長い間働いてきたに違いありません。海や川、水の泉がことごとく地に汚染されていくのをどのように思ったのでしょうか。

5 それから、水をつかさどる御使がこう言うのを、聞いた、「今いまし、昔いませんる聖なる者よ。このようにお定めになったあなたは、正しいかたであります。

6 聖徒と預言者との血を流した者たちに、血をお飲ませになりましたが、それは当然のことであります」。

7 わたしはまた祭壇がこう言うのを聞いた、「全能者にして主なる神よ。しかし、あなたのさばきは真実で、かつ正しいさばきであります」。

「正しい(義で、善く、まっすぐで、純粹、無垢)、お方。あなたは今、確かに今存在し続け、昔もずっと存在しておられたお方。聖なるお方。あなたはこのことをお定めになられましたゆえに正しいお方です。聖徒と預言者との血を流した者たちに、血をお飲ませになりましたが、それは当然のことであります。そして祭壇の方からも声が聞こえました。「全能者にし

て主なる神よ。しかし、あなたのさばきは真実で、かつ正しいさばきであります」真実とは、本当に頼ることが出来るという意味です。神様は、本当に頼ることでできる真実のお方です。

主なる神様は、ご自分の民を苦しめるエジプトの王の手からその民を救い出されるため、10の御業を成し遂げられました。

出エジプト記 3:14 神はモーセに言われた、「わたしは、有って有る者」。また言われた、「イスラエルの人々にこう言いなさい、『わたしは有る』というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と」。

7:16 そして彼に言いなさい、『ヘブルびとの神、主がわたしをあなたにつかわして言われます、「わたしの民を去らせ、荒野で、わたしに仕えるようにさせよ」と。しかし今もなお、あなたが聞きいれようとされないので、

7:17 主はこう仰せられます、「これによってわたしが主であることを、あなたは知るでしょう。見よ、わたしが手にあるつえでナイル川の水を打つと、それは血に変るであろう。

7:18 そして川の魚は死に、川は臭くなり、エジプトびとは川の水を飲むことをいとうであろう』と」。

7:19 主はまたモーセに言われた、「あなたはアロンに言いなさい、『あなたのつえを執って、手をエジプトの水の上、川の上、流れの上、池の上、またそのすべての水たまりの上にさし伸べて、それを血にならせなさい。エジプト全国にわたって、木の器、石の器にも、血があるようになるでしょう』と」。

7:20 モーセとアロンは主の命じられたようにおこなった。すなわち、彼はパロとその家来たちの目の前で、つえをあげてナイル川の水を打つと、川の水は、ことごとく血に变成了。

エジプトの王は、イスラエルの民を酷使し、その男の子たちを抹殺しようとしました。

1:8 ここに、ヨセフのことを知らない新しい王が、エジプトに起った。

1:9 彼はその民に言った、「見よ、イスラエルびとなるこの民は、われわれにとって、あまりにも多く、また強すぎる。

1:10 さあ、われわれは、抜かりなく彼らを取り扱おう。彼らが多くなり、戦いの起るとき、敵に味方して、われわれと戦い、ついにこの国から逃げ去ることのないようにしよう」。

1:11 そこでエジプトびとは彼らの上に監督をおき、重い労役をもって彼らを苦しめた。彼らはパロのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。

1:12 しかしイスラエルの人々が苦しめられるにしたがって、いよいよふえひろがるので、彼らはイスラエルの人々のゆえに恐れをなした。

1:13 エジプトびとはイスラエルの人々をきびしく使い、

1:14 つらい務をもってその生活を苦しめた。すなわち、しつこいこね、れんが作り、およ

び田畠のあらゆる務に当らせたが、そのすべての労役はきびしかった。

1:15 またエジプトの王は、ヘブルの女のために取上げをする助産婦でひとりは名をシフラといい、他のひとりは名をプアという者にさとして、

1:16 言った、「ヘブルの女のために助産をするとき、産み台の上を見て、もし男の子ならばそれを殺し、女の子ならば生かしておきなさい」。

この罪の数々が、自分の身に及び、地も水も家畜も作物も、最後には「パロのういごをはじめ、ひきうすの後にいる、はしためのういごに至るまで、みな死に、また家畜のういごもみな死ぬであろう。 11:6 そしてエジプト全国に大いなる叫びが起るであろう。このようなことはかつてなく、また、ふたたびない」というような出来事が起こりました。

それと同じように、「聖徒と預言者との血を流した者たちに、血をお飲ませに」なる、それは、「全能者にして主なる神よ。しかし、あなたのさばきは真実で、かつ正しいさばきであります」と呼ばれる通りのものでした。

8 第四の者が、その鉢を太陽に傾けた。すると、太陽は火で人々を焼くことを許された。

水は飲まれるものとはならなくなり、その上太陽が異常な灼熱をもって人に襲いかかります。今までの世界とは全く異なった世界とさせてしまったこの災害。不運、災厄、打ちたたき、傷のゆえに、人はどう感じるのでしょうか。自らの胸に手を当て、後悔の思いのうちに天を仰ぎ、赦しを乞うのでしょうか。それが神様の望まれたことでした。これらの災いが、ひとえに自分のしてきたことの帰結であることを悟り、そのことを認めて恥じて悔いる。このことを神様は望んでおられました。イエス様の隣に十字架にかけられた人が告白したように。

ルカ 23:40 もうひとりは、それをたしなめて言った、「おまえは同じ刑を受けていながら、神を恐れないのか。

23:41 お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない」。

しかし人々は、もう一人の犯罪人のようでした。

9 人々は、激しい炎熱で焼かれたが、これらの災害を支配する神の御名を汚し、悔い改めて神に栄光を帰することをしなかった。

ルカ 23:39 十字架にかけられた犯罪人のひとりが、「あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、またわれわれも救ってみよ」と、イエスに悪口を言いつづけた。

その上なおも自分の罪過を認めず、この災厄を自分のせいにはせず、人のせいだ、神のせいだと言い続け、神を呪い、冒涜し、侮辱し続けたのです。

10 第五の者が、その鉢を獸の座に傾けた。すると、獸の国は暗くなり、人々は苦痛のあまり舌をかみ、

11 その苦痛とでき物とのゆえに、天の神をのろった。そして、自分の行いを悔い改めなかった。

獸の国が暗くなるというのは私たちにとっては喜びですが、世を挙げて英雄視し、拠り所としていた悪魔数はいと偶像礼拝をする人たちからしたらそれは大きな苦しみであったということです。しかし、これを機に、出エジプトの力強い神様に立ち返れば良いものを、その自分たちの楽しい時代が過ぎ去ろうとしていることをいつまでも惜しみ、先の重い腫物と共にその刺し貫かれる苦痛のゆえに、舌を噛み、その舌の痛みをはるかに超えた体中に感じる苦痛にさいなまれていました。そしてこの時もなお、天の神を呪い、自分の行いを悔い改めませんでした。

苦しみに顔をゆがめ、身体は病に侵され、それでもなお悔い改めて神に栄光を帰することをせず、天の神をのろい、そして、自分の行いを悔い改めない人々。そして三度、21 節にありますように神をのろう人々。

この3度にわたる悔い改めず、神を呪う人々の姿を見ますに、本当に胸が苦しくなります。つらい思いになります。神様のお悲しみがここに深くあるのではないでしょうか。

12 第六の者が、その鉢を大ユウフラテ川に傾けた。すると、その水は、日の出る方から来る王たちに対し道を備えるために、かれてしまった。

13 また見ると、龍の口から、獸の口から、にせ預言者の口から、かえるのような三つの汚れた靈が出てきた。

14 これらは、しるしを行う惡靈の靈であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった。

第五、第六、第七の鉢については、獸の座、大ユウフラテ川、空中へと投じられるとあります。

大ユウフラテ川。クロス王がバビロンを占領する時、ユーフラテス川の水を干上がらせて、その乾いた川底をわたって攻略したという故事があるそうですが、日の出る方から(東から)来る王たちによってローマが侵略されるというその時代の風説を直接の出来事として、終

わりの時に現れる悪魔の勢力が象徴されているのかもしれません。

龍の口から、獸の口から、にせ預言者の口から、かえるのような三つの汚れた靈。

その正体が現されます。悪魔である竜も、政治的な力を握る獸も、偽りの宗教指導者である偽預言者たち(13章11節のもう一匹の獸を指すのか?)も、混然一体となって地上の王たちを招集して、神様に逆らって戦いをしようとする暴挙へと向かおうとします。

15 (見よ、わたしは盜人のように来る。裸のままで歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を身に着けている者は、さいわいである。)

16 三つの靈は、ヘブル語でハルマゲドンという所に、王たちを召集した。

17 第七の者が、その鉢を空中に傾けた。すると、大きな声が聖所の中から、御座から出て、「事はすでに成った」と言った。

「空中」とは、エペソ2章にありますように、悪魔たちの支配する所、住みかとも考えられていきました所です。

エペソ2:1 さてあなたがたは、先には自分の罪過と罪とによって死んでいた者であつて、

2:2 かつてはそれらの中で、この世のならわしに従い、空中の権をもつ君、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている靈に従って、歩いていたのである。

人の地に、そして悪魔の国に、その住みかに神様は裁きを隅々にまで及ぼされました。頼りにならないものを頼り、軽舉妄動する者たちをいさめ、悔い改めを促し、偽りの王国を倒し、それでもなお悪事に進む者たちをその成すがままに、破滅に任されます。

18 すると、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴とが起り、また激しい地震があった。それは人間が地上にあらわれて以来、かつてなかったようなもので、それほどに激しい地震であった。

19 大いなる都は三つに裂かれ、諸国民の町々は倒れた。神は大いなるバビロンを思い起し、これに神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。

20 島々はみな逃げ去り、山々は見えなくなった。

21 また一タラントの重さほどの大きな雹が、天から人々の上に降ってきた。人々は、この雹の災害のゆえに神をのろった。その災害が、非常に大きかったからである。

大いなるバビロン。神様に反逆する人の群れ。この段に及んでも神様に立ち返らずに神様を呪うその人たちにどのように救いが残っているのでしょうか。私たちは心を低くして、胸に

手を当てて虚しいものに頼らず、「今いまし、昔いませる聖なる方、お定めになったあなたは、正しい」というこのお方により頼んでいきたいと願います。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。出エジプトの奇跡、7つのラッパの出来事を思わせる再びの災害。それも今回は徹底した災いが地に下りました。しかし人々はその災害がどうして現れるのかと神様を呪いましたが、その原因が自分たちにあることに思いが至りませんでした。三度神を呪い、それでも悔い改めなかつたと書いてありますが、その聖書のお言葉に神様のお悲しみを感じます。風を、火を水を司り、御使いは神様のご意思の中で長い間地を守ってきましたが、この時それをことごとく滅ぼすという事に、神様にはどれほどのお悲しみがあったでしょうか。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン